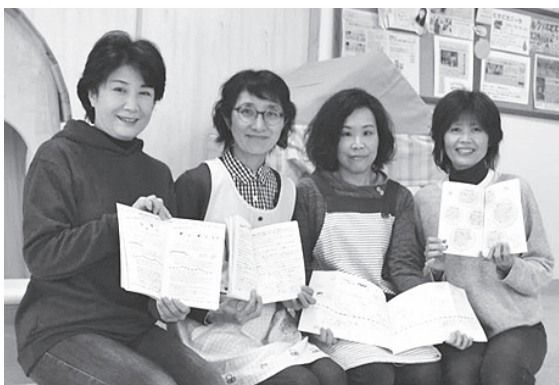


NPO法人お助けネット（中谷通恵代表）は本年度、町子育て世代交流促進・情報発信事業の委託を受け、「子育て講演会の開催」「すくすくまつりの開催」「子育て情報誌の発行」の3事業に取り組みました。講演会はコロナ禍で中止となりましたが、11月14日の親子で楽しめる子育て応援イベント「すくすくまつり」は、町内外の300人以上が訪れる大成功。同月には半年以上をかけた労作、子育て情報誌「すくすくしらおい」が完成しました。関係者の「白老で育つ子どもと取り巻くみんなが笑顔になれるまちに」との願いがさまざまな形で結実しました。

子育て情報誌「すくすくしらおい」はA5判、58頁。800部発行。編集スタッフが春からアンケート調査、取材、検討会議を通し完成させました。

## 興味を持ってもらえるおしゃべり感覚

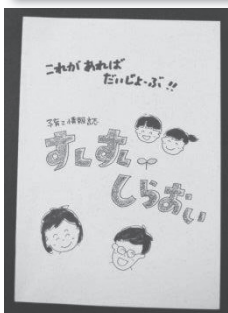


「子育て中によく利用する施設」の一つ、役場窓口も「初めての時はドキドキしましたが、聞きたいことがあれば気軽な気持ちで大丈夫！ですよ」などと、全編が「おしゃべりしている感じで紹介しました」という読みやすい内容。「公園紹介」の項目も「放課後には小学生がよく遊んでいます」「大きな木が周りにあり、気持ちいいですよ」と、実際に使う立場からの感想が添えられています。

目を引くのは「ちょこっとおすすめ口コミ情報」。アンケートなどで集まった町民の生の声がのびのびと詰まっています。「トトロがいそうな森があります」「カフェを楽しみながら野鳥観察ができます」「白老にはおいしいパン屋さんがいっぱい」「魚介類の新鮮さにびっくり」「バスが町内どこでも100円」などと、身近な自然や商店街、街中の楽しみ、喜びが、温かみのある手書きでつづられています。ほか、「キャンプ場紹介」「車がなくても大丈夫」「ちょこっとおすすめ本」「子育て応援&習い事情報」と、役立つ情報が満載です。

## 「みんなだれかにつながっているよ」

スタッフらは「何度も検討を重ね、足を使って情報を集めましたので、私たち自身も白老再発見でした。語り掛けるような流れにしましたので、一人ではなくだれかにつながっている、とっておきがあれば」と活用を期待していました。



## すくすくまつりで親子ら大満足



隔年開催の「すくすくまつり」は前回、コロナ禍で中止となりましたが、今回はコロナウイルス感染拡大防止を徹底しての待望の開催。会場の白老コミセン大ホールの中央には子どもたちに大人気のカプラ（積み木）約1万5,000枚をどーんと設置。椅子に上り自分の身長を超える高さに上手に積み

上げるなど、真剣な表情で思い思いの造形を楽しんでいました。

ほかアイヌ文様をバッグにプリントするアイヌ文化体験や白老在住のピアニスト・太田亜紀子さんの演奏、森のピタゴラス（木製知育玩具）、プラバン工作、香り付きポチ袋&しおり作り、けん玉、キッズヘアチャレンジなど、10を超えるメニューに終始親子の笑顔がわいていました。アイヌ文様のプリントに挑戦した星心羽さん(10)は「絵具をスポンジで塗るのは初めてだけど、出来上がりがすごくきれいでうれしい」と満足げにバッグを眺めていました。スタッフらも「予想以上の反響。子どもたちの笑顔や親同士の交流もあり、楽しんでもらえたと思います」「いろいろな人がきてくれ、皆さんの反応がうれしかった」と準備、開催の苦勞が報われたようでした。